



config コマンド

- [config ap address](#) (1 ページ)
- [config ap client-trace](#) (2 ページ)
- [config ap client-trace filter](#) (3 ページ)
- [config ap client-trace output](#) (4 ページ)
- [config boot baudrate](#) (5 ページ)
- [config boot break](#) (5 ページ)
- [config boot crashkernel](#) (6 ページ)
- [config boot debug-memory](#) (7 ページ)
- [config boot manual](#) (7 ページ)
- [config boot path](#) (8 ページ)
- [config cts debug enforcement host_ip](#) (8 ページ)
- [config cts debug enforcement rate](#) (9 ページ)
- [config cts debug enforcement permissions](#) (9 ページ)
- [config cts debug enforcement protocol](#) (10 ページ)

config ap address

AP IPv4 または IPv6 アドレスを設定するには、**config ap address** コマンドを使用します。

```
config ap address ipv4 { dhcp | static { static-ip-addr static-netmask default-gateway-ip-addr |  
ipv6 { auto-config { enable | disable } | dhcp | disable | link-local ipv6-addr | static ipv6-addr  
ipv6-prefix gateway-ipv6-addr
```

構文の説明

ipv4	IPv4 アドレスを設定する
ipv6	IPv6 アドレスを設定する
auto-config	IPv6 アドレスを自動設定する
dhcp	IPv6 DHCP を設定する

auto-config

auto-config

コマンド デフォルト なし。

コマンド履歴 リリー 変更内容
ス

このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン 例

関連コマンド

コマンド	説明
------	----

config ap client-trace

アクセスポイントにクライアントトレースを設定するには、**config ap client-trace** コマンドを使用します。

```
config ap client-trace {address {add | clear-all | delete} | all-clients {enable | disable} | filter {all
{enable | disable} | arp {enable | disable} | assoc {enable | disable} | auth {enable | disable} | dhcp
{enable | disable} | eap {enable | disable} | icmp {enable | disable} | ndp {enable | disable} | probe
{enable | disable}} | inline-mon {enable | disable} | output console-log | start | stop}
```

構文の説明	
addresses	トレースするクライアントを設定する。クライアントの MAC アドレスを指定する
add	トレースするクライアントを指定する
clear-all	このアクセス ポイント上のすべてのクライアント トレースを削除する
delete	トレースするように設定されているクライアントのアドレスを削除する。クライアントの MAC アドレスを使う
all-clients	すべてのクライアントをトレースする
enable	すべてのクライアントのトレースを有効にする
disable	すべてのクライアントのトレースを無効にする
filter	クライアント トレースのためのフィルタを設定する
all	すべてのフィルタをトレースする

arp	ARP パケットをトレースする このフィルタを有効または無効にするには、 enable または disable キーワードを使用します。
assoc	ASSOC パケットをトレースする
auth	auth パケットをトレースする
dhcp	DHCP パケットをトレースする
eap	EAP パケットをトレースする
icmp	ICMP パケットをトレースする
ndp	NDP パケットをトレースする
probe	プローブ パケットをトレースする
inline-mon	インライン モニタリングを有効または無効にする
output	コンソールまたはログファイルへのロギングを有効または無効にする
<i>console-log</i>	コンソール ログのキーワードを指定する
start	クライアントのトレースを開始する
stop	クライアント トラッキングを停止する

コマンド モード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴
リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、AP でクライアント トレースを開始する例を示します。

```
cisco-ap# config ap client-trace start
```

config ap client-trace filter

クライアントトレースのフィルタを設定するには、**config ap client-trace filter** コマンドを使用します。

```
config ap client-trace filter { all [ disable | enable ] | arp [ disable | enable ] |
assoc [ disable | enable ] | auth [ disable | enable ] | dhcp [ disable | enable ] }
```

```
| eap [ disable | enable ] | icmp [ disable | enable ] | ndp [ disable | enable ]
}
```

構文の説明	all すべてのフィルタをトレースする
	arp ARP パケットをトレースする
	assoc ASSOC パケットをトレースする
	auth auth パケットをトレースする
	dhcp DHCP パケットをトレースする
	eap EAP パケットをトレースする
	icmp ICMP パケットをトレースする
	ndp NDP パケットをトレースする

コマンドモード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

クライアント トレースのフィルタを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
cisco-ap# config ap client-trace filter
```

config ap client-trace output

トレースの出力を設定するには、**config ap client-trace output** コマンドを使用します。

```
config ap client-trace output console-log {disable | enable}
```

構文の説明	console-log トレースの出力をコンソールとログに表示する
	disable コンソールとログへのトレースの出力を無効にする
	enable コンソールとログへのトレースの出力を有効にする

コマンドモード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴	リリース 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、トレースの出力を設定する例を示します。

```
cisco-ap# config ap client-trace output
```

config boot baudrate

ボーレートを設定するには、**config boot baudrate** コマンドを使用します。

```
config boot baudrate {115200 | 9600}
```

構文の説明	
	115200 ボー レートを 115200 に設定する
	9600 ボー レートを 9600 に設定する

コマンド デフォルト デフォルトの config boot baudrate は 9600 です。

コマンド モード Privileged EXEC (#)

コマンド履歴	リリース 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ボー レートを 9600 に設定する例を示します。

```
cisco-ap# config boot baudrate 9600
```

config boot break

ブレイクを有効にするには、**config boot break** コマンドを使用します。

```
config boot break {enable | disable}
```

構文の説明	
	enable ブートブレイクを有効にする

disable ブートブレイクを無効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ブートブレイクを有効にする例を示します。

```
cisco-ap# config boot break enable
```

config boot crashkernel

カーネルクラッシュを有効または無効にするには、**config boot crashkernel** コマンドを使用します。

config boot crashkernel {enable | disable}

構文の説明

enable カーネルクラッシュを有効にする

disable カーネルクラッシュを無効にする

コマンドモード

Privileged EXEC (#)

コマンド履歴

リリー 変更内容
ス

8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、カーネルクラッシュを有効にする例を示します。

```
cisco-ap# config boot crashkernel enable
```

config boot debug-memory

メモリデバッグを有効にするには、**config boot debug-memory** コマンドを使用します。

config boot debug-memory {enable | disable}

構文の説明	<p>enable メモリ デバッグを有効にする</p> <p>disable メモリ デバッグを無効にする</p>
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	<p>リリース 変更内容</p> <p>8.1.111.0 このコマンドが導入されました。</p>

次に、メモリ デバッグを有効にする例を示します。

```
cisco-ap# config boot debug-memory enable
```

config boot manual

AP のマニュアルブートを有効にするには、**config boot manual** コマンドを使用します。

config boot manual {enable | disable}

構文の説明	<p>enable マニュアルブートを有効にする</p> <p>disable マニュアルブートを無効にする</p>
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	<p>リリース 変更内容</p> <p>8.1.111.0 このコマンドが導入されました。</p>

例

次に、マニュアルブートを有効にする例を示します。

```
cisco-ap# config boot manual enable
```

config boot path

ブートパスを設定するには、**config boot path** コマンドを使用します。

```
config boot path {1 | 2}
```

構文の説明	
	{1 2} パート1またはパート2として指定するパス
	Privileged EXEC (#)
	リリー 変更内容
	ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、ブートパスを1に設定する例を示します。

```
cisco-ap# config boot path 1
```

config cts debug enforcement host_ip

ホスト IP に基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングするには、**config cts debug enforcement host_ip** コマンドを使用します。

```
config cts debug enforcement host_ip {ipv4 dst-ip [src-ip] | ipv6 dst-ip [src-ip]}
```

構文の説明	
	ipv4 dst-ip [src-ip] 宛先 IP アドレス、またはオプションで送信元 IP アドレスに基づいた、IPv4 SGACL 強制デバッグのみを表示する
	ipv6 dst-ip [src-ip] 宛先 IP アドレス、またはオプションで送信元 IP アドレスに基づいた、IPv6 SGACL 強制デバッグのみを表示する
	Privileged EXEC (#)

コマンド履歴	リリース 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、ホスト IP に基づいて IPv4 SGACL 強制デバッグをフィルタリングする例を示します。

```
cisco-ap# config cts debug enforcement host_ip ipv4 209.165.200.224 209.165.200.227
```

config cts debug enforcement rate

デバッグログの出力レートを設定するには、**config cts debug enforcement rate** コマンドを使用します。

config cts debug enforcement rate {X Y}

コマンドモード	Privileged EXEC (#)
構文の説明	<p>rate デバッグ ログの出力レートを設定する</p> <p><i>X</i> 処理した <i>Y</i> 個の packets ごとにデバッグを表示する packets の数。有効な範囲は 0 ~ 10000</p> <p><i>Y</i> 処理する packets の数。有効な範囲は 0 ~ 10000</p>

コマンド履歴	リリース 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

例

次に、処理される 500 packets ごとに 100 packets のデバッグを表示するなど、デバッグ ログの出力レートの設定例を示します。

```
cisco-ap# config cts debug enforcement rate 100 500
```

config cts debug enforcement permissions

送信元グループタグ (SGT) および宛先グループタグ (DGT) に基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングするには、**config cts debug enforcement permissions** コマンドを使用します。

config cts debug enforcement permissions {dgt | sgt} tag-id

構文の説明	dgt 宛先グループ タグ
	sgt 送信元グループ タグ
	<i>tag-id</i> タグ識別子。有効な値は0～65535
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、ID が 600 の宛先グループ タグに基づいて、SGACL 強制デバッグをフィルタリングする例を示します。

```
cisco-ap# config cts debug enforcement permissions dgt 600
```

config cts debug enforcement protocol

プロトコルに基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングするには、**config cts debug enforcement protocol** コマンドを使用します。

```
config cts debug enforcement protocol {protocol-id | icmp | tcp | udp}
```

構文の説明	<i>protocol-id</i> プロトコル ID。有効な値は 0～65535
	icmp ICMP トラフィックで SGACL 強制デバッグをフィルタリングする
	tcp TCP トラフィックで SGACL 強制デバッグをフィルタリングする
	udp UDP トラフィックで SGACL 強制デバッグをフィルタリングする
コマンドモード	Privileged EXEC (#)
コマンド履歴	リリー 変更内容 ス
	8.1.111.0 このコマンドが導入されました。

次に、UDP トラフィックのプロトコルに基づいて SGACL 強制デバッグをフィルタリングする例を示します。

```
cisco-ap# config cts debug enforcement protocol udp
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。